

ぶどう膜炎に対する治療の検討

京都府立医科大学眼科では、ぶどう膜炎の患者さんをぶどう膜炎に関する臨床研究を実施しております。

実施にあたり京都府立医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。

研究の目的

ぶどう膜炎とは眼内に炎症を起こす疾患を指し、具体的にはサルコイドーシス、Vogt-小柳-原田病、急性前部ぶどう膜炎、ヘルペス虹彩毛様体炎、ベーチェット病、細菌性眼内炎、トキソカラ症などの様々な疾患が含まれます。

近年、新しい薬剤や硝子体手術機器の登場などにより、ぶどう膜炎の治療も多岐にわたっています。これらの治療法の長期の臨床経過の報告について多数例の報告はまだ多くありません。本研究ではぶどう膜炎の臨床経過を後ろ向きに調査し、治療と予後の関係を検討します。これにより将来のぶどう膜炎の診療において、治療方針の決定に役立てることができ、治療成績の向上につながると考えています。

研究の方法

・対象となる方について

平成20年4月1日から現在までの間に、京都府立医科大学眼科でぶどう膜炎に関する診療を受けられた患者が対象となります。

・ **研究期間**： 医学倫理審査委員会承認後から2023年3月31日

・方法

当院眼科においてぶどう膜炎の治療を受けられた方で、診療録（カルテ）より以下の情報を取得します。ぶどう膜炎と取得した情報の関連性を分析し、治療と予後の関連について調べます。

・研究に用いる試料・情報について

診療録や検査機器より対象となる患者様の基本データ（年齢、性別、疾患名など）や検査データ（視力、眼圧、網膜厚、眼底写真、蛍光眼底造影検査、採血など）、手術記録などを抽出し解析を行います。

・個人情報の取り扱いについて

患者さんの測定結果、カルテ情報などをこの研究に使用する際は、氏名、生年月日などの患者さんを直ちに特定できる情報は削除し研究用の番号を付けて取り扱います。患者さんと研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、インターネットに接続できないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、入室が管理されており、第三者が立ち入ることができません。

また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、患者さんが特定できる情報を使用することはありません。

なお、この研究で得られた情報は研究責任者（京都府立医科大学 眼科学教室 永田 健児）の責任の下、厳重な管理を行い、患者さんの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

・試料・情報の保存および二次利用について

カルテから抽出した情報などは原則としてこの研究のために使用し結果を発表したあとは、京都府立医科大学眼科において病院助教 永田健児の下、10年間保存させていただいた後、研究用の番号等を削除します。

保存した試料・情報を用いて将来新たな研究を行う際の貴重な試料や情報として、前述の保管期間を超えて保管し、新たな研究を行う際の貴重な試料・情報として利用させていただきたいと思います。新たな研究を行う際にはあらためてその研究計画を医学倫理審査委員会で審査し承認を得ます。

研究組織

研究責任者

京都府立医科大学 眼科学教室 教授 外園 千恵

お問い合わせ先

患者さんのご希望があれば参加して下さった方々の個人情報の保護や、研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画及び実施方法についての資料を入手又は閲覧することができますので、希望される場合はお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2023年3月31日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

京都府立医科大学眼科

職・氏名 病院助教 永田 健児

電話：075-251-5040